

地域を生かすために 自分にできることをしよう

全員が主役のまちづくりを実践してきた木藤亮太さんの、
地域を良い方向へ導く魔法の言葉を紹介します。

まちづくりの仕掛け人と
受け継がれる意志

宮崎県日南市にひときわ注目を集める商店街がある。かつては「猫すら歩かない」と揶揄された油津商店街だが今では「日南の奇跡」と呼ばれ、安倍晋三前首相も地方創生の成功例として挙げた。

“考えるだけじゃなくて

動いちゃえ”

このシャッター商店街の再生をデザインしたのが福岡県を拠点に活動していた自治体のコンサルタント、木藤亮太さん。老舗喫茶の改装を皮切りに、食堂や多目的施設などを次々とオープンさせ、目標を上回る成果を上げた。退任後も仲間が



株式会社ホーホウ 代表取締役 **木藤 亮太**さん
1975年生まれ。福岡県那珂川町(現那珂川市)で育つ。九州芸術工科大学(現在は九州大学に統合)大学院芸術工学部修了。宇城市では起業支援やまちづくり講座などに携わる。

意志を継ぎ古いまち並みを生かした活動を続ける。

挑戦と応援の連鎖をつなごう

木藤さんはこう話す。

「実は私が何かをしていっているわけではなく、みんなが挑戦しやすい状況をつくり、後押ししているだけ。商店街の活気はそれぞれが課題意識を持って考え、動いたことの積み重ねなんです。」

「一つずつの行動は小さなこと。コーヒー店を立ち上げた。高校生たちが夜市を復活させた。大学生が宿をつくった。小

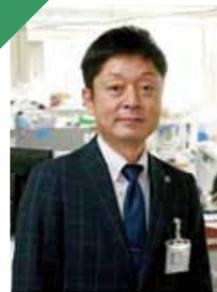
学生アイドルがまちを盛り上げようと踊っている。そういった小さなチャレンジとみんなの応援が連鎖し続けていることが大切なんです。」

地域の良さを生かして活動しよう

木藤さんは現在、地元の福岡県那珂川市で2018年にリニューアルオープンした博多南駅ビル「ナカイチ」の運営を引き継ぎ、カフェやワークスペース、レンタルス

小川支所がイオンモール宇城へ

小川支所は、12月7日④からイオンモール宇城へ移転します。場所はキッズUSランドの跡地でニトリの東側。新しい支所は、時を経ても色あせないデザインとなるよう、また、市民の誇りとなることを願い、九州大学芸術工学研究院と共同で設計しました。地域の核となる場所に人の流れを作



市長政策室 室長補佐 **田川 大輔**

地域のつながりの場を創出

ることで利便性を高め、市民と商業施設、市が三方よしとなることを目指しています。また、障がい者の就労支援カフェを併設。市民の皆さんが集いやすい空間づくりにも配慮し、憩いの場を設けています。皆さんぜひご活用ください。

ナカイチに関わる
皆さんに
インタビュー

子どものにぎやかな声を聞きながら、デザインの仕事をしています。
夏目ちひろさん

那珂川の食材を使って作るサンドイッチをこの名物にしたいです。
梶 和倫さん

木藤さんと多くの人の関わりを見ながら、場づくりの勉強中です。
安部 育美さん

学生の意志を聞き、一緒にやろうと誘ってくれる大人がたくさんいます。
作元 希帆さん



ナカイチ2階 レンタルスペースなどがあり、イベントなどが開催される。



喫茶キャプテンは人と人をつなぐ場として、常連客だけでなく多くの人を訪れ、交流が生まれている

ペースなどを仲間と共に展開している。

「那珂川市は約1万人から5万人に人口が増え、福岡市のベッドタウンとして急成長。福岡市への依存度が高く、まちの景色も更新されがちです。」と、木藤さん。

“楽しいことを仲間と共に

他にも、店じまいされそうだったまちのシンボリック存在の喫茶「キャプテン」の事業を継承。外観やメニューをそのまま残し、営業を続けている。ここでは古いものや自

発的に活動することを大切にしながら、地域づくりが進められている。

相手のことを想像しながら取り組もう

「デザインという言葉には社会の問題を解決するということの意味が含まれています。ただし、

デザインもまちづくりも一人ではできません。課題の解決には必ず相手のことを想像しながら取り組むことが必要。また、地域は個々の取り組みが集まって形成されています。コミュニケーションを取りながら、一つ一つを丁寧にデザインして

“自分たちができる

ちっぽけなことが社会を変える”

「無い物をねだるよりも、地域にあるものを活用しましょう。時代の流れとともにカタチは変化していきますが、記憶は大切に、でも、視点を変えて前向きにゼロから再設計しましょう。」

「地域の課題解決のためには、一人一人の小さな行動を仲間と共に楽しく続け、応援し合うことが大切。まずは、こうなったらいいなと声に出しましょう。挑戦や応援が生まれ続けると、次第に大きな渦となり、地域を良い方向へ導きます。」